自立活動の個別の指導計画

自立活動については、まず基本となるのは、自立活動の６区分２７項目を窓にして、実態を把握しています。自立活動の内容は、人間として基本的な行動を遂行するために必要な要素と、障害による学習上または生活上の困難を改善・克服するために必要な要素を検討したものです。個々の児童生徒に必要とされる項目を選定し、それらを相互に関連付けて具体的な指導内容を設定することが必要となります。そのためには、児童生徒のある側面のみの偏った見方に陥ることなく、幅広く多角的な視点で実態を捉えることが必要となり、行動観察による実態把握だけでなく、客観的に児童生徒を捉えるための発達を軸に整理をしたチェックリストを活用しています。

自立活動チェックリスト《人間関係の形成》

気持ちの共有	7	教師や友達と一緒に心地よい活動に一定時間取り組める		Y	N		Y	N		Y	N	
	8	「楽しい」「かなしい」「困った」時などに、教師の顔を見る		Y	N		Y	N		Y	N	
	9	相手が見ているものや方向に視線を向ける		Y	N		Y	N		Y	N	
	10	教師や友達からのはたらきかけに応じた行動をとる ※「どんなはたらきかけ」に対して「どんな行動」があるのかを備考欄に記載		Y	N		Y	N		Y	N	
備考												
身近な人への要求	11	自分の要求を実現してくれる特定の教師に何らかの手段で要求を伝えることができる ※手を引く、指さしをする、声を出すなど個に応じた手段がある場合には備考欄に記載	S：身6M～1Y11M MⅡ：コ10～12M	Y	N		Y	N		Y	N	

自立活動チェックリスト《身体の動き》

歩行移動のための用具の活用	78	杖、ウォーカーなどの補助用具を使って歩くことができる ※可能な補助用具を備考欄に記載		Y	N		Y	N		Y	N	
	79	手すりを伝って歩くことができる ※具体的に伝い歩きが可能な距離を備考欄に記載	遠：移11M MⅡ：姿10～12M	Y	N		Y	N		Y	N	
	80	身体を支える援助があれば歩くことができる ※支える位置や援助している部位を備考欄に記載	MⅡ：姿10～12M	Y	N		Y	N		Y	N	
	81	手を引く援助があれば歩くことができる		Y	N		Y	N		Y	N	

更衣動作	129	かぶり型の服を脱ぐことができる	遠：基3Y S：身2Y～3Y5M	Y	N		Y	N		Y	N	
	130	かぶり型の服を着ることができる	S：身2Y～3Y5M	Y	N		Y	N		Y	N	
	131	ボタンのとめはずしができる	遠：手3Y4M	Y	N		Y	N		Y	N	
	132	ボタン、ファスナー操作を含む前開き型の服の着脱ができる	遠：手3Y4M	Y	N		Y	N		Y	N	
	133	ボタン、ファスナー操作を含むズボンの着脱ができる	S：身3Y6M～4Y11M	Y	N		Y	N		Y	N	
	134	靴下の着脱ができる		Y	N		Y	N		Y	N	

また、本校では、自立活動チェックリストに加えて、遠城寺式乳幼児分析的発達検査、ビネー式知能検査、ウェックスラー式知能検査、S-M 社会生活能力検査、フロスティッグ視知覚発達検査などを発達段階に応じて活用して、児童生徒の実態把握を行っています。

実態把握を進めていくと、「もう少しで達成」「援助の量が減らせるかも」「できはするのだが確実ではない」

「今、このことを身に付けておかなければ」といった対象とする児童生徒にとっての課題が明らかになってきます。その課題を自立活動の６区分の内容を観点にして整理をしていくようにしています。まず、目標設定シートの課題関連図（目標設定シート：課題関連図 参照）の欄にもあるように、実態把握から見えてきた対象となる児童生徒の課題を一つずつ１枚のカードに書き起こします。

そして、一つ一つのカードと他のカードとの関連を考え、「原因と結果」「相互に関連し合う」といった関係が考えられます。関連を示す矢印を関係の種類によって書き分けると、視覚的に見やすくなったり、説明がしやすくなったりします。 実態把握からの課題関連と学びの履歴、卒業までに身に付けさせたい力の想定までを踏まえ、中心となる課題を導き出します。

どの課題を中心に据えると、対象とする児童生徒の「調和的な発達の基盤づくり」につながるのかを想定し、検討をしていく必要があります。その際には、卒業までの在学期間を踏まえ、生活年齢に応じた指導を組み立てる視点をもつことが大切です。１年スパンでのみ考える指導の積み重ねから、１２年間の中の１年間として捉える考え方に移行することが求められています。そうすると、「このことは課題ではあるけど、今までの取組が成果として十分に現れていないので、習得につながりにくいのでは」「このことはもちろん一人でできるに越したことはないが、将来の生活を考えると、少しの援助で安全にできることの方が大切だ」「このことだけを取り出して指導するよりも、別の課題と結び付けて目標にした方が良さそうだ」といった、学びの履歴や卒業時にめざす姿を根拠とした分析や整理をすることができます。

自立活動　目標設定シート

作成日：令和　　年　　月　　日

学部・学年	□学部△年	氏名	A	記入者	B

３年生の終わりまでにめざす姿

提示された二つの物から興味がある方に手を伸ばすこと、立位保持や援助を受けた歩行の力を高めて生活の中で使うことができる。

諸検査の結果と解釈

遠城寺式乳幼児分析的発達検査（Ｈ　．　．　実施）　ＣＡ８：９　ＦＤＱ ２５

移動運動	０：７．５	手の運動	０：６．５	基本的生活習慣	０：５．５
対人関係	０：９．５	発語	０：６．５	言語理解	０：６．５

＜解釈＞

過去の記録と比較すると、特に手の運動や対人関係で伸びが見られている。人への関心を手がかりにして全体の発達を引き上げるアプローチが効果的なのではないか。

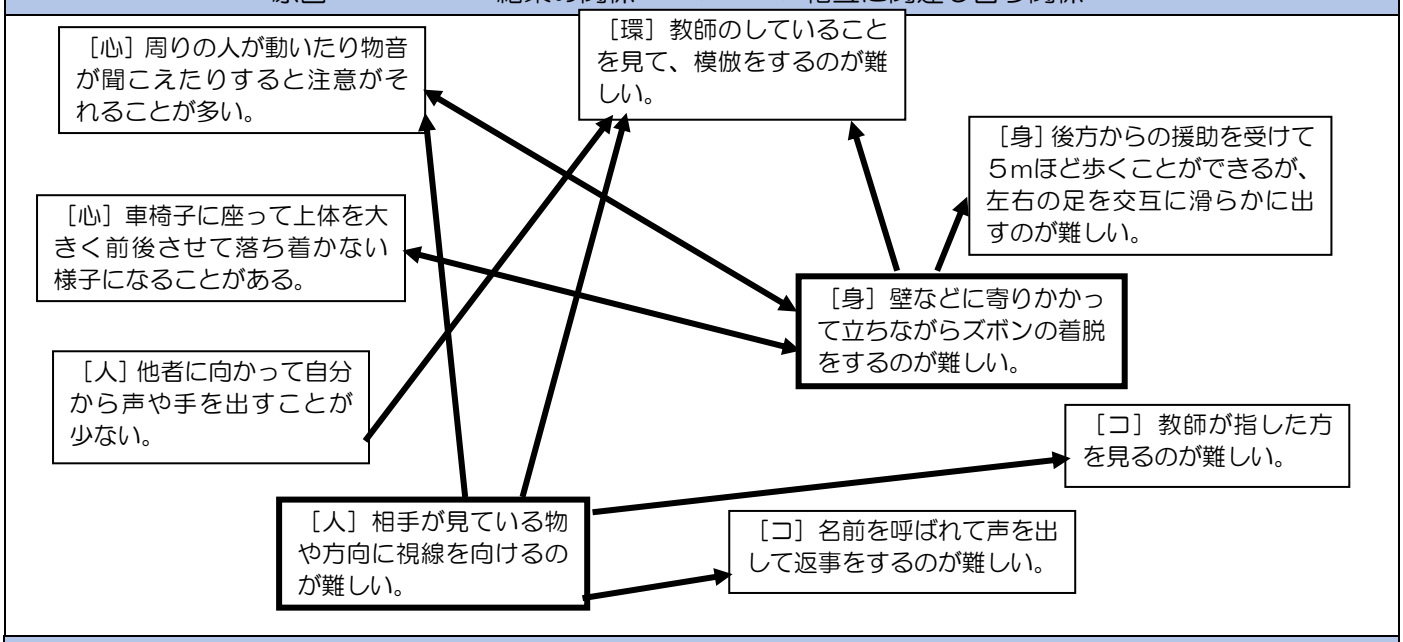
６区分に即した整理

チェックリスト等を基に着目した実態（指導のしどころ）		健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ
	どこまでができていることなのか	○鼻呼吸を３秒以上することができ、ところみをつけた水分を一口ずつ飲むことができる。	○場所や関わる人が変わっても落ち着いて穏やかに活動に向かえる。	○話しかけられた人の方を見て応えることができる。 ○友達や教師と一緒に一定時間活動に取り組める。	○教師に身体を触れられると、一瞬力を入れるが、しばらくすると働きかけに応じられる。 ○教師が動かした身体部位を教師と一緒にもう一度動かすことができる。 ○ゆっくりと動く物を目で追うことができる。	○肘立て伏臥位を保ちながら本や画面を見ることができる。 ○上腕のみへの援助を受けて十数秒立位を保つことができる。	○目の前に提示された物を数秒間見続ける。 ○声を出すことができる。
	援助があればできることから、今年度の課題を抽出	~~○外気温によって体温が左右されることが多い。~~ ~~○夜間の睡眠時に痙攣があることが多い。~~ ~~○口唇や顎を適切に動かして、水分や食物を取り込むのが難しい。~~	○周りの人が動いたり物音が聞こえたりすると注意がそれることが多い。 ○車椅子に座って上体を大きく前後させて落ち着かない様子になることがある。	○他者に向かって自分から声や手を出すことが少ない。 ○相手が見ている物や方向に視線を向けるのが難しい。	~~○口周りに触れられるのが苦手で歯磨きを嫌がる。~~ ○教師のしていることを見て、模倣をするのが難しい。	~~○日常的に筋緊張が強く、上肢を屈曲、背を丸くさせている。~~ ~~○肘立て腹臥位や座位で傾きに対して立ち直るのが難しい。~~ ○後方からの援助を受けて５ｍほど歩くことができるが、左右の足を交互に滑らかに出すのが難しい。 ○壁などに寄りかかって立ちながらズボンの着脱をするのが難しい。	○教師が指さした方を見るのが難しい。 ○名前を呼ばれて声を出して返事をするのが難しい。

※○○　学習状況の視点から整理したもの　　~~○○~~　３年後の姿の観点から整理したもの

諸検査、自立活動チェックリスト、各教科における学習上の困難などを踏まえた課題関連図

原因 ⟶ 結果の関係　⟷ 相互に関連し合う関係



課題関連から考えられる指導の方向性

【実態と学習上生活上の困難】

・穏やかな表情でいることが多い。人への関心が高まってきており、動いている人をじっと見ることができるが、絵本や教師が指した物など、注目してほしいものを見ることが難しい。

・食事、排泄、移乗などにおいて全面的に援助を受けて生活している。より少ない援助、短い時間での日常動作が保護者の願いであるが、特に食事については時間がかかり、十分な量を摂れないことがある。

【学びの履歴と習得状況】

これまでに座位や立位などの姿勢保持に関することや歩行に関することを学習し習得を進めてきた。しかし、衣服の着脱や日常の移乗などの際には、安全に姿勢を保つことが難しく、習得したことを十分に生かすことができていない。

【中心的な課題】

相手に視線を向けたりして気持ちを共有することが身に付いていないために、相手の働きかけに注意を持続させ、適切に応じることが難しいのではないかと判断した。

【指導仮説】

相手と気持ちを共有するよさを味わわせるような指導をすることで、相手の働きかけに気付き、働きかけに応じる力が高まると考える。相手の働きかけに注目し、注意を持続させて応じる力が身に付くことで、これまでの学習で身に付けてきた姿勢保持や歩行の力を日常で発揮できるようになるのではないかと考える。教師や友達の存在を常に添えて、歩行などの活動に取り組ませることによって、言葉への応答や物を介したやりとりを十分に行いながら、発信する力を伸ばすことにもつなげたい。

今年度の自立活動の目標

教師の言葉かけや指さす方向に注意を向け、上肢への援助を受けながら、５m程度足を交互に動かして目的のところまでたどり着くことができる。

（　車や便座への移乗や室内での移動に生かすために　）

区分	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
項目		(2) 状況の理解と変化への対応に関すること	(1) 他者とのかかわりの基礎に関すること (2) 他者の意図や感情の理解に関すること	(4) 感覚を総合的に把握した周囲の状況の把握に関すること	(3) 日常生活に必要な基本動作に関すること (4) 身体の移動能力に関すること	(1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること (2) 言語の受容と表出に関すること